

2024年3月期第2四半期決算の概要

1. 当第2四半期の業績について

当第2四半期は下表のとおり、前期に比べて、個別、連結とも増収増益の決算となった。(百万円未満切捨て)

区 分			前第2四半期 (A)	当第2四半期 (B)	比 較 (B-A)
売 上 高	個 別	船 新 造 船	(12隻) 16,786	(11隻) 23,185	(Δ1隻) 6,399
		改 修 船	(30隻) 1,113	(37隻) 2,741	(7隻) 1,627
		そ の 他	173	173	Δ0
		計	18,073	26,100	8,026
		陸上・サービス事業	39	31	Δ7
	連 結 子 会 社	計	18,112	26,132	8,019
		船舶事業	24	34	10
		陸上・サービス事業	189	175	Δ13
	連 結	計	213	210	Δ2
		船舶事業	18,097	26,135	8,037
		陸上・サービス事業	228	207	Δ20
		合計	18,326	26,342	8,016

(注)個別・連結売上高の主な増収要因は、新造船の売上対象隻数が前年同四半期に比べ1隻減少(12隻→11隻)したものの、船種の違い、各船ごとの決算日における工事進捗度が異なること、円安の影響により外貨建て工事の売上高が増加したことによる。
また、前連結会計年度から継続して取り組んでいた大口の改造船工事、修繕船工事が完工したことによる。

(百万円未満切捨て)

区 分			前第2四半期 (A)	当第2四半期 (B)	比 較 (B-A)
損 益	営 業 利 益	個 別	242	2,674	2,431
		連 結	248	2,691	2,443
	経 常 利 益	個 別	207	2,682	2,475
		連 結	210	2,698	2,487
	四半期 純利益	個 別	485	2,189	1,704
		連 結	484	2,197	1,713

(注)個別・連結の増益要因は、為替相場が円安に振れたことから第2四半期末の売上対象船の船価の評価額が増加したこと、また、既受注船の工事損失引当金を取り崩したことによるものである。

2. 船舶事業の受注状況等について

新造船市場においては、これまでの重油に代わる燃料の動向を様子見る動きに加えて、原油、鋼材価格の高止まりや急激な為替相場の変動など、先の見えない状況により、2023年はじめごろまで商談は停滞していた。また、一時はドライバルク市況の上昇により回復の兆しを見せていた新造船発注については、市況の変化などにより一転して様子見る動きが増えている。

収益面については、新造船の受注船価は一時的に上昇したが、資機材価格の高騰や鋼材価格の高止まりに起因する建造コストアップをカバーできる水準には届いておらず、内航船はもとより外貨(USD)建受注外航船においても円安効果を除けば収益の厳しい状況が続いている。

第3四半期以降はその低採算の内航船の売上の比率が増加し、収益圧迫要因となる見込みである。

また、今年度に入っても、米国経済が引き続き底堅く推移していることから想定外に円安傾向が継続したが、この先米国経済の成長率鈍化に伴い円高に向かうという予測が一般的である中、受注済みの外航船及び新規受注船の収益が大幅に悪化するという大きな変動要因があり、先行きは不透明であるため、2023年5月12日に公表した通期の連結業績予想については、据え置くこととした。

このような状況のもと、受注については、新造船6隻、修繕船他で332億35百万円を受注し、受注残高は、新造船21隻他で854億56百万円(前年同四半期比26.7%増)となった。

3. 2024年3月期の業績予想について

通期の業績予想について、2023年5月12日に公表した業績予想からの変更はない。
また、2024年3月期の配当については、1株当たり40円の期末配当を実施する予定である。
なお、当社の業績に変動を与える事象が生じた場合には、速やかに開示する。

(単位:百万円)

区 分	通期(予想)	
	個 別	連 結
売 上 高	44, 000	44, 500
営 業 利 益	700	700
経 常 利 益	500	500
当 期 純 利 益	300	300

(おわり)